

バイオマスの種類と賦存量

本市におけるバイオマスの賦存量を整理すると右記のようになっています。家畜排せつ物、剪定枝等、100%が利用されている資源がある一方で、利用率の低い資源もあり、これらの資源の有効活用に向けては、資源の収集から利活用に向けた検討及び取組が必要となっています。

※バイオマスタウン構想(平成23年2月)資料をベースに、下記箇所について最新値に時点更新。

-  市農林課資料(H27年12月)により時点更新
-  国勢調査(H22)、南砺市の統計(H26)、富山県廃棄物処理計画(とやま廃棄物プラン)(H24)に基づき時点更新
-  民間事業者への聞き取りにより時点更新(平成27年度)

バイオマス資源		賦存量(t/年)		現在の利用方法	利用率%
		湿潤量	炭素換算量		
廃棄物系バイオマス		—	7,832		73.4
家畜排せつ物	乳用牛	5,676	339	土壌還元、たい肥化	100.0
	肉用牛	4,002	239	〃	100.0
	豚	17,975	1,073	〃	100.0
	採卵鶏	2,085	124	〃	100.0
	馬	50	3	〃	100.0
食品廃棄物	家庭系生ごみ	4,075	180	たい肥化、焼却処理	14.4
	事業系生ごみ	1,428	63	肥料化、たい肥化、飼料化、焼却処理	15.9
	家庭系廃食用油	88	65	BDF化、焼却処理	47.7
	事業系廃食用油	172	127	BDF化、飼料用の油脂化、焼却処理	4.7
洗柿の皮		193	16	—	0.0
木質バイオマス	製材工場等廃木材	6,784	2,319	パークたい肥化、パルプ原料化、燃料チップ化、たい肥化、薪、焼却処理	71.0
	剪定枝	13	3	パークたい肥化、粉碎土壌化	100.0
	刈芝草	64	5	パークたい肥化	80.0
有機汚泥	下水・農業集落排水・林業集落排水	2,250	216	たい肥化、セメント化	100.0
	し尿汚泥	2,991	287	たい肥化	100.0
	浄化槽汚泥	2,199	211	たい肥化	100.0
	廃棄紙	5,207	2,562	製紙原料化	59.6
未利用バイオマス		—	14,665		94.3
農産資源	稲わら	31,421	8,996	すきこみ	100.0
	もみ殻	6,324	1,811	たい肥化、家畜敷料化、飼料化	69.1
	米ぬか	2,510	719	肥料化・たい肥化・蕨栽培	98.7
	麦わら	647	185	すきこみ	100.0
	大豆がら	449	129	すきこみ	100.0
林産資源	林地残材・間伐材	11,241	2,504	建築用材、製紙等(間伐材)	90.6
	ダム流木	1,310	285	マルチング材、たい肥化、蕨栽培、牛舎敷料	100.0
	竹林	228	36	—	0.0
資源作物		—	0.077		100.0
油脂資源	ひまわりの種子	0.945	0.077	食用油化、園芸農家のたい肥	100.0

推進体制



南砺市市民協働部エコビレッジ推進課

〒932-0292 富山県南砺市南砺市井波520

TEL 0763-23-2050 FAX 0763-82-5101 HP <http://www.city.nanto.toyama.jp/>

南砺市バイオマス産業都市構想

1 バイオマスとは

生物資源(bio)の量(mass)を表すものです。一般的には生物由来の有機性資源※1で化石資源※2を除いたものを言います。バイオマスとは、有機物が作り出すエネルギーの原料のことを言います。

※1 生物由来の有機資源…家畜排出物や生ごみ、木屑など動植物から生まれたもので再生可能なもの。

※2 化石資源…石油、石炭、天然ガスなど。

2 バイオマス産業都市とは

バイオマス産業都市とは、経済性が確保された一貫システムを構築し、地域の特色を活かしたバイオマス産業を軸とした環境にやさしく災害に強いまち・むらづくりを目指す地域です。

平成30年までに約100地区のバイオマス産業都市の構築を目指し、関係府省が共同で地域を選定し連携して支援を行う地域です。

3 背景と趣旨

本市では、バイオマスの利活用の推進について、これまでバイオマスタウン構想に基づき取り組みを進めてきました。これらの施策の状況を見ると、林地残材をはじめとする木質バイオマスのエネルギーとしての有効活用などについては、さらなる利活用に関する取り組みを進めていく必要があります。

本市では、人口減少が進む中、地域にある様々な地域資源を生かした地域の活性化と持続可能な社会の構築を目指す「南砺市エコビレッジ構想」を策定し、自立循環型の地域づくりを進めています。折しも、「地方創生」が叫ばれる中、バイオマスの利活用の観点からも、新たな地域資源の循環を構築し、「地産地消」を進めるとともに、世界遺産五箇山合掌造り集落等も活かした「南砺ブランド」による商品開発等を行い、本市の魅力を発信しながら、外とのネットワークの確立についても進めていきます。

— 南砺市バイオマス産業都市構想 —

目指すべき将来像

南砺市において、目指すべきバイオマスを活用した都市像

地域に誇りを持ちながら
暮らし続けていくための
エコビレッジの実現

バイオマスを活用した
地産地消の
資源循環社会の実現

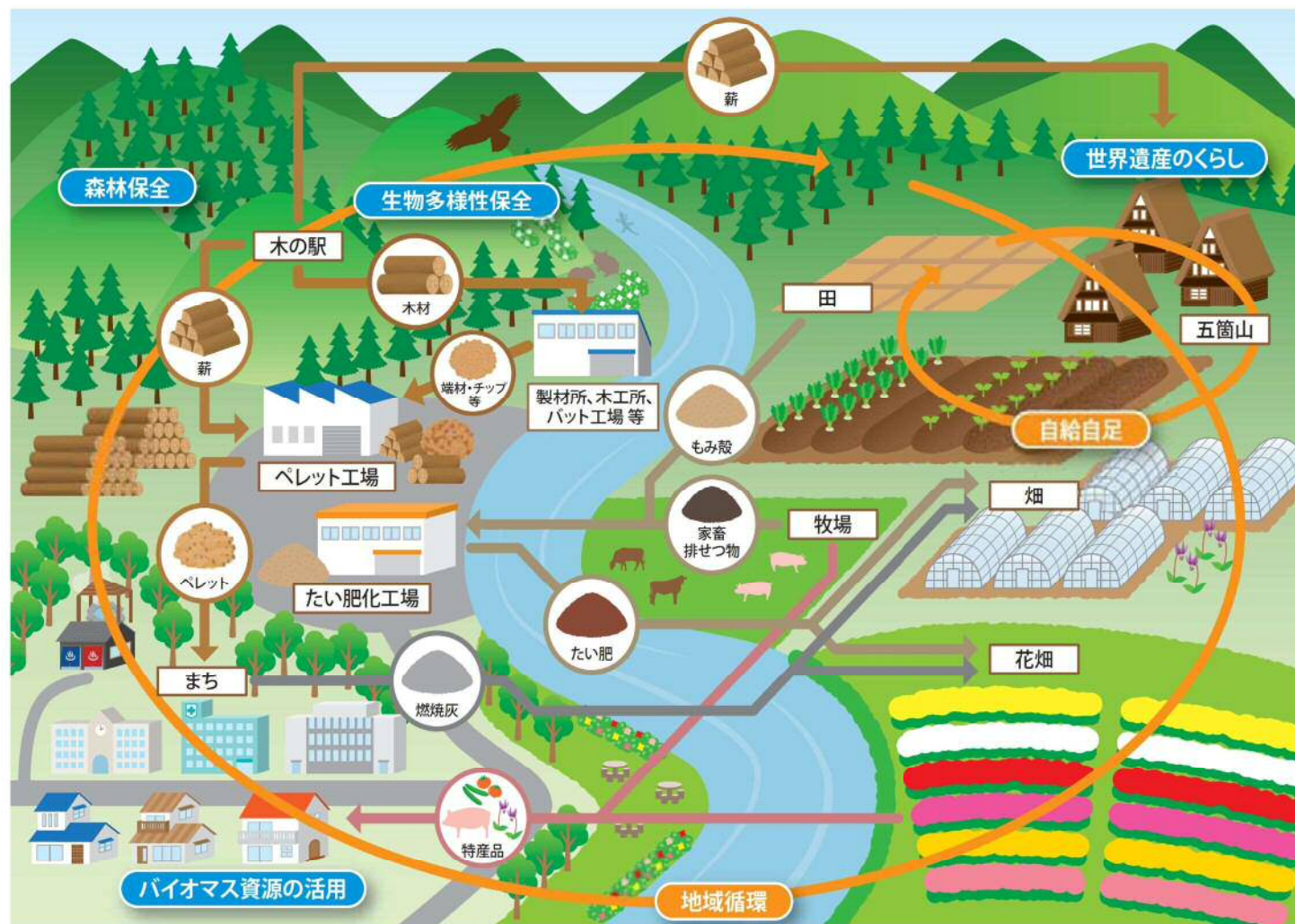
世界遺産
「五箇山」ブランドによる
地方創生・地域活力の向上

地域資源を利用した
災害につよい
まちづくりの実現

市の主幹産業である
農業・林業の振興、
ブランド商品開発

地域の循環型社会をデザインし、世界に発信するエコビレッジの実現

目指すべき将来像（イメージ図）



事業の全体イメージ図

